

NHKスペシャル

シリーズ「エネルギーの奔流」〈全2回〉

放送：総合テレビ 5月24日（土）・25日（日）午後9：00～9：49 2夜連続放送

人類は今、かつてない勢いでエネルギーを消費している。中国、インドをはじめとする新興国の人口増加とエネルギー需要の爆発的な拡大は今後も続き、2030年には世界の電力需要は2倍に、エネルギー消費は4割増になる。この底なしの需要を満たそうと莫大なマネーを投じた資源開発と貿易拡大が加速。米国シェール革命に続き、世界各地で続々と地の底に眠っていたエネルギー資源が掘り起こされている。「石油はあと数十年で枯渇する」という定説をせせら笑うように、エネルギー需要、供給、両方が爆発的に拡大しているのだ。

一方で、大量のエネルギー消費が地球環境に与える負荷は、許容を超える危機的水準に達している。CO₂の増加をそのまま放置した場合、今世紀末に気温は6度上昇。海面は80センチ上昇すると予測されている。それでも、化石燃料の中でCO₂の排出量が最も多い石炭の消費が世界的に増え続けているのが実態だ。

CO₂を出さないとして注目される風力、水力といった再生可能エネルギーは化石燃料を代替するには至っていない中、世界中で169基の原発が建設もしくは計画されている。しかし原発にも使用済み核燃料という厄介なゴミ問題がついて回る。

番組では、想像を超える新興国のエネルギー消費、世界各地のエネルギー開発の現場を取材し地球規模で加速するエネルギーの奔流を描き出す。そして化石エネルギー、再生可能エネルギー、原子力エネルギー、いずれにも困難なリスクがともなうなか、人類の存続のために何を選択すべきなのかを2回シリーズで考える。

前編「エネルギーの膨張 果てなき欲望」(仮)

5月24日(土)放送

前編は、恐ろしいほどに膨張を続けるエネルギー開発の現場とその舞台裏に迫る。

国家財政を破綻させかねないリスクを抱えて超深海の石油掘削に乗り出したブラジル。CO₂の大量排出もいとわず、京都議定書から脱退してまでも「オイルサンド」からの原油抽出に成功し、世界第3位の産油国になったカナダ。「あと数十年で枯渇する」と言われてきた化石燃料の分野で加熱する、資源開発の実態に迫る。

また、加速する原発建設の実態も明らかにする。サウジアラビアなど旧来の産油国は、経済発展にともない国内の石油消費量が増加。電力需要を原子力に頼ろうとしている。一方で、少ない負担で原発を買える新たな原発ビジネスの仕組みが誕生し、資金の乏しい新興国も原発建設に乗り出している。

爆発的に拡大する新興国のエネルギー消費と、それを満たそうと加熱するエネルギー開発の現場を追う。

後編「膨張の果てに 地球は持続できるのか」(仮)

5月25日(日)放送

後編は、エネルギー開発によって翻弄される地球環境の実態や対策の最前線に迫り、私たちはエネルギーとどう向き合えばよいのか考える。

去年、環境に最も負荷をかける石炭が、半世紀ぶりに世界のエネルギー消費の首位に返り咲き、CO₂排出量は過去最大を更新した。対策としてCO₂を地下深くに埋める「CCS」が開発されたが、最新の研究で思いがけないリスクが明らかになっている。

温暖化ガスを出さない原発だが、使用済み核燃料というゴミが出る。現在、原発を持つほとんどの国が、自国で使用済み核燃料を処理することが出来ないでいる。そこに登場したのが、世界各国が共同で地球のどこかに最終処分場を確保する巨大ビジネスだ。しかし、世界のどこかに埋めることには変わりなく、新たな不安を引き起こしている。

このまま、環境への根本的な解決策を持たずにエネルギーの膨張を続けると、地球はどうなるのか。エネルギー消費を抑える術はあるのか。環境をどう守るのか、原子力とどう向き合うのか、世界中の専門家の声に耳を傾け、エネルギーとどう向き合うのか、改めて問い直す。